

2010年2月18日

東日本電信電話株式会社
代表取締役社長 江部 努 殿

NTT東日本神奈川支店勤務の保坂さんを
品川ツインズビルに転勤させる会

要 請 書

2007年9月26日、私たちは貴社に東日本電信電話株式会社・神奈川支店法人営業部に勤務している保坂貢さんの実状を訴え、「介護のために通勤時間が短くなる品川ツインズビルに配転させてほしい」とお願いしてきました。

しかし3年を経た今も、私たちの要請に対し一片の回答すらいただいております。

昨年春から、脊髄小脳変性症という難病の妻を抱える保坂貢さんを、仕事と介護の両立が図れるよう自宅近隣職場へ転勤できるようにと貴社に対する要請署名を取り組みました。

今日、個人署名759筆、団体署名4筆の署名を持参しましたが、これまでの集計では、個人署名17,140筆、団体署名492筆となりました。

北海道から九州まで1万7千人を超える方が「NTTのみなさん、保坂さんを転勤させてください」と署名してくださいました。この署名の重みを、ぜひ真摯に受け止めてください。

昨年10月27日夕方、東横線・学芸大学駅で、地元目黒の区議会議員、地域の方の協力もいただき、ビラ配布と保坂貢さんの実状を訴え、通勤、帰宅途中のみなさんの理解と協力をお願いしました。

20歳代の若いみなさんから思いがけず、「がんばって下さい」と激励とカンパをいただきました。立ち止まって聞き、「NTTでそんなことがあるの?」「転勤できるといいね」と声をかけていただきました。

昨年3月、フジテレビ「とくダネ! 増える介護離職」の番組で、保坂貢さんは「妻を介護したい」「自宅近隣職場に転勤したい」を訴えました。先日は「その後の状況はどうか」取材を受けました。後日、放映される予定となっています。

高齢化社会が迫るなか、総務省の就業構造基本調査によると、家族の介護や看護のために、離職・転職した人は06年10月から07年9月の1年間で14万4800人にのぼり、4年前と比べると5割以上増加、過去10年間で最高となりました。

保坂貢さんの「自宅近隣職場への転勤」について、貴社は「保坂さんはわがまま」(N関労団交)との姿勢のようですが、今や「仕事と介護の両立」は、社会の要請であり、企業の社会的責任が問われる状況になっています。地域での声、マスコミからの取材はその証左です。

こうした状況をつよく認識していただきたいと考えます。

保坂貢さんの妻が羅病して10年が経ちました。妻の病気は完治の見込みなく緩慢に悪くなっていくと言われていています。昨年は、1月に腎臓疾患で緊急入院、5月には白内障と診断され、10月に手術をしました。

保坂貢さんの妻は、毎週土曜日、リハビリに励んでいますが、身体が思うように動かず、保坂貢さんとともに往復、タクシーを利用せざるを得ない状況になってきました。

食事作り、洗濯、掃除等、日常生活のすべてが保坂貢さんの双肩にかかっています。嚥下症状もあり、何かあっても駆けつけられる自宅近隣の職場への転勤が、ますます必要になってきています。

貴社は、昨年5月末、保坂貢さんに対し「在宅勤務」を承認。このため負担は若干軽減したものの、今だ保坂貢さんの負担は大きく、共倒れも心配になってきています。あらためて、難病である脊髄小脳変性症への認識を深め、保坂貢さんご夫妻の状況を直視してください。

保坂貢さんの妻がこれ以上病状を悪化させず、健康を回復させるためには、貴社の協力が必要不可欠です。そして、保坂貢さんが難病の妻の介護・リハビリができるよう「人道的配慮」をし、早急に転勤できるよう強く要請します。

以上